

大腸がん検診の実績について

～過去 10 年間の統計から～

○若松遥香、坂下香代子、佐藤寿、松下睦美、松尾知章、湯田敏行  
公益財団法人宮崎県健康づくり協会

はじめに

日本人が一生のうちのがんと診断されるのは 2 人に 1 人で、男性は 4 人に 1 人、女性は 6 人に 1 人ががんで亡くなっている。部位別罹患数では大腸がんは男女ともに第 2 位で、女性のがん死亡の第 1 位を占めている<sup>1)</sup>。大腸がんのスクリーニング検査として用いられている便潜血検査は便中に存在する潜血を調べる検査で、現在対策型大腸がん検診として、40 歳以上の住民を対象に 1 年に 1 回の免疫便潜血検査 2 日法が実施されている<sup>2)</sup>。

今回、過去 10 年間の当協会での大腸がん検診の統計をもとに要精検率、精検受診率やがん確定者 380 名について考察したので報告する。

対象

2014 年 4 月から 2024 年 3 月末までの 10 年間に当協会で大腸がん検診を受診した 272,020 人（男性 137,942 人、女性 134,078 人）のうち大腸がんと確定した 380 人（男性 234 人、女性 146 人）を対象とした。なお、全受診者のうち検体 1 本のみ提出者（以下 1 本提出者）が 11,803 人（4.34%）、検体 2 本提出者（以下 2 本提出者）が 260,217 人（95.7%）であった。

方法

測定機器：ヘモテクト NS-Prime

測定原理：金コロイド比色法

カットオフ値：100ng/mL

結果

表 1 に検診受診者数及び結果を示す。要精検者数は 17,707 人（男性 10,291 人、女性 7,416 人）、要精検率は 6.51%（男性 7.46%、女性 5.54%）であった。精検受診者数は 12,328 人[精検受診率 69.6%]（男性 6,746 人[65.6%]、女性 5,582 人[75.3%]）であった。がん発見率は 0.14%（男性 0.17%、女性 0.11%）で、陽性反応適中度は 2.15%（男性 2.27%、女性 1.97%）であった。

次に、年齢階級・男女別の受診者数及び大腸がん発見数を表 2 に示す。受診者数は 60 歳代が最も多く、がん発見数は、70 歳代で 132 人、次いで 60 歳代で 126 人と、両世代で全体の 67.9%を占めた。また、がん発見率、陽性反応的中度ともに同世代で高くなっている。

続いて精密検査の結果を表 3 に示す。精検受診者 12,328 人のうち異常なしが 3,535 人（28.7%）、大腸がんは 380 人（3.08%）であった。がん以外の疾患として 1 番多かったのが腺腫で 5,575 人（45.2%）、次いで大腸憩室 1,247 人（10.1%）、非腺腫ポリープ 665 人（5.39%）、痔などを含むその他の疾患 620 人（5.03%）であった。大腸がん確定者 380 人の病期別分類は、進行がん 123 人（32.4%）、早期がん 248 人（65.3%）、進展度不明 9 人（2.37%）であった。同様に、大腸がん 380 人の提出検体数を比較すると、1 本提出者が 7 人（1.84%）、そのほかは 2 本提出者であった。また、2 本提出者の大腸がん 373 人中、172 人（45.3%）が 1 本のみ陽性であった。（図）最後に、2022 年度、2023 年度のがん確定者について過去の受診歴をみると、受診歴がない、または過去 5 年以上がん検診を受け

表 1 大腸がん検診受診者数及び結果

区分	A 検診受診者数	検診結果		D 要精検率 %	E 精検受診者数	F 精検受診率 %	G 大腸がん	I がん発見率 %	陽性反応適中度
		B 異常を認めず	C 要精検						
				C/A	E/C		G/A	G/C	
男	137,942	127,576	10,291	7.46%	6,746	65.6%	234	0.17%	2.27%
女	134,078	126,562	7,416	5.54%	5,582	75.3%	146	0.11%	1.97%
合計	272,020	254,138	17,707	6.51%	12,328	69.6%	380	0.14%	2.15%

表 2 年齢階級・男女別 大腸がん(2014年～2023年)

年齢	年齢階級						計
	～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	
受診者数	16,830	51,110	54,076	76,250	56,444	17,210	272,020
男	10,572	27,537	26,575	36,884	27,615	8,758	137,942
女	6,358	23,573	27,501	39,366	28,829	8,451	134,078
発見がん数	3	27	55	126	132	37	380
男	2	14	37	80	73	28	234
女	1	13	18	46	59	9	146
陽性反応適中度	0.41	1.23	1.87	2.46	2.84	1.89	2.15
がん発見率(%)	0.02	0.05	0.11	0.17	0.21	0.21	0.14
男	0.02	0.05	0.14	0.22	0.27	0.32	0.17
女	0.02	0.04	0.09	0.13	0.16	0.09	0.11

ていない人が6割近くを占め、前回要精検だったが精検未受診の受診者は全体の16%を占めた。

表3 精密検査結果

区分	精検受診者数	異常なし (1)	大腸がん				大腸の転移性腫瘍 (5)	大腸がん疑い (6)	その他の悪性腫瘍 (7)	がん以外の疾患										不明 (17)	精検未把握者数	
			進行 (2)	早期 (3)	進展度不明 (4)	G計 (2+3+4) (4)				カルチノイド (8)	腺腫			計 (11)	非腺腫性ポリープ (12)	潰瘍性大腸炎 (13)	クローン病 (14)	大腸憩室 (15)	その他の疾患 (16)			計 (8+16) (16)
											直径10mm未満 (9)	直径10mm以上 (10)	直径不明 (11)									
男	6,746	1,387	75	154	5	234	0	7	3	7	1,778	455	1,361	3,594	376	45	6	658	314	5,000	115	3,545
女	5,582	2,148	48	94	4	146	0	2	0	7	993	206	782	1,981	289	23	2	589	306	3,197	89	1,834
合計	12,328	3,535	123	248	9	380	0	9	3	14	2,771	661	2,143	5,575	665	68	8	1,247	620	8,197	204	5,379

考察とまとめ

国の指針<sup>3)</sup>に基づいて当協会の結果について検討した。過去10年間の要精検率は6.51%で、現在の許容値(以下許容値)の7.0%(40-74歳)以下はクリアしているが、令和6年に新たに設定された新基準値は6.8%(40-74歳)以下とされている。精検受診率は69.6%と全国平均の71.4%(40-74歳)<sup>4)</sup>にわずかに届かず、新基準値の90%以上には程遠いのが現状である。がん発見率は0.14%で、許容値の0.13%(40-74歳)以上はクリアしているが、新基準値は0.21%(40-74歳)以上となった。陽性反応的中度は2.15%で許容値1.9%(40-74歳)以上はクリアしているが、新基準値は3.0%(40-74歳)以上である。

がん確定者の男女比は1.6:1で男性が多く、年代別では60代から70代にピークが見られ、全国のデータと同様であった。がん確定者のうち早期がんの割合が全体の約2/3を占め、大腸がんは早期発見が可能ながんといえる。また2本提出した検体のうち1本のみ陽性の割合が45.3%を占めた。さらにがん確定者の6割近くが5年以上検査を受けていないか、過去の受診歴がないことから2日法での毎年の検診の有用性がわかる。がんを早期に発見し、早期治療ができれば、身体に負担の少ない内視鏡治療の可能性も高くなる。

大腸がんの前臨床期(無症状期間)は約7年と推定されており、進行が比較的遅いがんである。大腸がん検診は、繰り返し検診を受けることで早期発見をするという考えに基づいているが、受診率や精検受診率が低ければこの考え方は成り立たない。2022年の国民生活基礎調査によると<sup>5)</sup>、宮崎県及び全国の受診率は50%に届かず、さらに、新基準値は60%に引き上げられた。今後は、現在行っている活動を継続しながら、大腸がんが早期発見可能ながんであることや検体2本提出の必要性をより周知し、大腸がん検診の普及啓発を行っていききたい。そして、受診率の向上や精検受診率の全国平均以上、国の目標値である90%以上を目標に取り組んでいきたい。

<参考文献>

- 1) 国立がん研究センターがん情報サービス がん統計 最新がん統計のまとめ
- 2) 大腸がん検診精度管理委員会 大腸がん検診マニュアル - 2021年度改訂版 -
- 3) 厚生労働省 がん検診事業のあり方について プロセス指標の基準値一覧
- 4) 国立がん研究センターがん情報サービス がん検診 がん検診の都道府県別プロセス指標
- 5) 厚生労働省 2022(令和4)年国民生活基礎調査の概況 がん検診の受診状況
- 6) 宮崎県がん検診受診率向上プロジェクト

